

快適な教育研究の場に



完成予想図。来年9月の完成を目指している

東北工業大学（樋口龍雄理事長、渡邊浩文学長）の八木山キャンパス実験・教育棟新築工事が9日、仙台市内の現地で清水建設・仙建工業・阿部和工務店JVの施工で本格着工した。設計・監理は佐藤総合計画が担当。2022年9月の完成を目指す。



鎌入れする早川代表



鎌入れする樋口理事長



鎌入れする清水支店長

同大学の主要拠点の1つ八木山キャンパス内（太白区八木山香澄町35-1）の老朽建物を建て替えるキャンパス再整備計画の初弾として、敷地東側の駐車場に新棟を建設し、複数棟に分散している学科ごとの実験室などを集約する。規模はS造4階建て延べ6370平方メートル。2層吹き抜けの実験室は、キャンパス側をガラス張りのカーテンウォールとする

ことで大型設備を使った実験の様子を外からも見られるようにする。また、各階に階段状の吹き抜けを備えた多目的スペースを設けることで学生間の交流などを促す。神事には、樋口理事長や渡邊学長、早川謙二佐藤総合計画執行役員東北オフィス代表、清水康次郎清水建設執行役員東北支店長、内田浩二仙建工業社長、船山克也阿部和工務店社長らが

設計・監理—佐藤総合計画 施工—清水JV

出席。代表者が鎌（くわ）入れた後、神前に玉（たま）をささげて工事期間中の安全を祈念した。

席上、あいさつに立った樋口理事長は「人・活動をつなぐ『知（ち）の杜』の実現に向けて、より快適な教育研究の場となる。施工に携わる企業は近隣の生活環境に配慮しながら無事に完成させてほしい」と語った。



結城健一作業所長（清水建設）の話

「大学を運営しながらの施工になるため、行事などに合わせた作業の一時中止など、騒音や振動に配慮する。ドローンを使って施工状況を定点撮影し、大学の広報活動にも貢献したい」

